

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770302321		
法人名	有限会社 花束		
事業所名	グループホームひまわりA棟		
所在地	郡山市安積4-334-1		
自己評価作成日	令和7年4月15日	評価結果市町村受理日	令和7年6月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の意向を出来る限り把握し支援に努めております。一人一人の思いや訴えを傾聴しながら毎日、楽しくゆったりとしたペースで生活が支援できるように支援に努めております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和7年5月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 町内会に参加し、利用者と共に回覧板を隣に届け、クリーン作戦も利用者も参加協力をしている。また、公民館の三世代交流事業の見学や事業所へフラダンスやひよっこ踊り等のボランティアの訪問がある。日々の散歩中に出会う地域の方と挨拶をする等、日常的に地域交流がある。
2. 利用者を人生の大先輩と尊敬し、会話時の声のトーン抑揚に気を付け、開かれた質問をするように心掛け、利用者が自由に話せるよう配慮する等、一人一人の人格を尊重している。
3. ほぼ毎日散歩に出かけており、また、季節に応じて花見や紅葉狩りに近くの大学や公園の他、足を延ばして猪苗代湖までドライブに出かける事もある。さらに、希望がある時に近くの量販店に買い物に行く他、家族と外食や外泊等をしている方もおり、日常的に外出支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員の思いや意識を盛り込み、分かりやすい言葉で作成し申し込みの際に再確認している。	開所当時、職員と話し合いをし、策定した理念を継続している。毎朝の申し送り時に復唱し、玄関や事務室、申し送り時に集まるキッチンの壁に掲示し共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ等、感染予防のため密な関係は避けているが情報交換はできている。双方の体調管理の確認を行いながら数回ではあったがボランティアをお招きできた。	町内会に参加し、利用者と回覧板を次の家に届け、クリーン作戦も利用者に参加している。地域の公民館の催し物を見に出かける他、フラダンスやひよっこ踊り等のボランティア訪問がある。また、散歩中に地域の方と挨拶する等、地域との交流が日常的にある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献までは至らないが散歩等で出会った際には積極的に話しかけ顔を覚えてもらえるように対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	感染症の広がりやを考慮しており、現在は集まったの会議開催は行っておらず。電話でのやりとり時などに情報をいただいたりしている	現在、コロナ感染症に配慮し、書面開催をしている。事業所の取り組みを郵送で報告し、家族から面会時や電話で意見を聞いている。	新型コロナウイルス感染症は令和5年5月8日から5類感染症に移行したので、運営推進会議の開催方法を対面等で行うことを検討し、市の職員又は地域包括支援センターの職員の参加を得る事が望まれる。さらに、運営規程に地域との連携について記載することが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護サービス相談員の訪問の際に地域情報を教えていただいたりアドバイスをもらっている。	市からの連絡通知や資料は、主にメールで送付されている。管理者は事故報告書等を直接窓口へ持参し、また、生活保護関係の担当課で相談や制度の確認をする等、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とはどういったものなのかどんな苦痛をもたらすのかという事を認識しケアに取り組んでいる	指針に基づいて委員会を定期的に開催している。委員会の内容を全体会議で報告し、管理者は、何が身体拘束に当たるかを常に職員に話している。研修会を年2回事業所内で行い、年1回法人全体で虐待防止委員会と併せて実施している。玄関は朝の8時から夕方7時まで開錠している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	福-1	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会を行い全職員、理解を深め防止に努めている。法人全体でも定期的に虐待防止の会議を開催している。	指針に基づいて委員会を開催している。委員会の内容を全体会議で報告し、年1回の法人研修及び年2回の事業所内研修の他、アンガーマネジメント等の研修を実施し、事業所全体で虐待防止に取り組んでいる。	身体拘束適正化及び虐待防止の指針に委員の責務及び役割分担を記載し、さらに、虐待を受けたと思われる高齢者を発見した場合の通報を分かり易くフローで示し職員に周知することが望まれる。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き情報統一や制度の知識を高めるよう努力している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定の際には説明や時間を取り、不明な点確認しながら話を進めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも相談できるような環境作りに努め日頃の会話等から思いを組みとれる様に努めている	利用者から日々の会話の中で意見を聴くように努めている。また、落ち着かない様子がある時は、個別に丁寧に話を聞いている。家族から面会時や電話で話を聞き、面会時に利用者の様子を伝えると共に家族からの意見を聞くように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見・要望を聞く機会を設けている。日常の中で意見交換しやすい関係づくりに努めている	朝の申し送りや全体会議、各ユニット会議で職員から意見や提案が多く出されている。管理者はコミュニケーションを大切にし、会議等で意見を出しにくい職員には、会議後に声を掛けて聞く等し、職員が意見を自由に出せる環境づくりに配慮している。また、年2回目標管理等も含め管理者面接を実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会へ参加したり、勉強会を設ける事、疑問や興味をもつことでスキルアップに努めている		
13	福-2	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を通じて色々なケースを想定し実践を試みる事で向上に努めている。	年間を通して、法人及び事業所内で計画的に研修を実施している。また、職員が自主的にチューブを利用した研修も認め報告書を出して貰っている。新職員採用時には、プログラムに基づいて管理者やユニットリーダーがOJTを行い、職員の養成に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との情報を交換したり利用者様の受け入れを行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を解消し、本人が安心して生活できるよう傾聴しながら信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時には家族様の立場に立って丁寧に説明し、不安なこと、要望等に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時相談、受付の段階で話しをよく聞き、本人や家族様が必要とするサービスを見極め、現状に即したサービスが出来るよう対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で本人の出来る事を見つけて行っていただいたり、職員と一緒に作業をすることで、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様も参加できるような行事を考え、一緒に楽しんで頂ける機会を作っている。面会時や電話、手紙等で利用者様の現状を伝え、家族様の思いを受け止められるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や職員と馴染みのある店等に行き、これまでの関係が途切れないよう支援している。来客面会時、居室やリビングでゆっくり過ごしていただけるよう配慮している。	入居時、本人や家族から知人の等の情報を得ている。家族や親戚、近所に住んでいた方が面会に来所している。また、利用者が希望する馴染みの和菓子店へ買い物や散歩、ドライブ等、出来る限り人や場所と関係が途切れないよう支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握しながら一人一人の性格や考え方を尊重し支え合えるような支援ができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もこれまでの関係性を大切に、困ったときはいつでも相談して頂けるように話しをしている。また移住先の関係者に情報提供をおこなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人一人の思いや暮らし方の希望を把握し支援している。意思表示が困難な場合は家族等からの情報を元に本人の思いに沿った生活が送れるよう支援している。	居室担当者が日々の生活の中での会話を大切にしている。毎日の介護日誌に利用者が話す言葉や思いを記録し、申し送り時に詳しく話し合い、思いや意向の把握に努めている。把握が困難な時は、家族等から情報を得て本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族等から生活歴や生活状況を確認したり、本人との会話の中で馴染みのある暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録、連絡帳を用いながら利用者様の現状や心身の変化について把握し、職員間で共有しながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で話し合い、評価をしながら利用者様、及び家族の意向や心身の状況の変化を踏まえて介護計画を作成している。	入居時に本人・家族の意向に沿った介護支援計画を当初2か月分作成し、その後短期3か月・長期6か月のを作成している。各ユニットで毎月モニタリングを行い、3か月ごとにケアマネと計画作成担当者が評価をし、サービス担当者会議に本人と家族が参加し話し合いをしている。緊急時には現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の確認、申し送りや連絡帳にて情報を共有しながら、ケアの実践。介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々での状況の変化に応じて支援方法を見直しつつ本人に合わせたサービスが提供できるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今現在感染症が流行の為、地域活動があまりできていない状況にあるが、ポオランティアなどをお招きしたり、地域の清掃活動に参加したりしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に、本人や家族の希望する医療機関で受診できるよう支援している。	入居時に馴染みのかかりつけ医を継続受診できることを説明している。殆どの方は往診と夜間対応可能な協力医を希望している。かかりつけ医の継続受診や他科受診は家族対応とし、生活状況や症状等は事前に電話で説明し、同行支援を行い適切な医療を受けられるよう支援している。受診結果も相互共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問あり。個々の状態報告をして相談したり指示を受けている。又適宜往診体制も整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や病院関係者との情報交換を密に行い、対応できるよう努めている。退院時も再度情報を確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医、家族との意思を確認し職員間での情報共有をこまめに行い支援に取り組んでいる。	事業所の「重度化・看取りに関する指針」を説明し覚書により意向確認している。終末期の対応は医師より説明をいただき、家族・事業所が方針を共有しながら看取りを行っている。また、看取り後に話し合いや研修を実施している。終末期は家族も宿泊でき、職員と共に寄り添うことができるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には適切な対応がとれるようマニュアルを用いて勉強会を行っている。定期的に緊急時の連絡網訓練も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練や定期的に緊急連絡網訓練を行い、一人一人が素早く対応できるよう訓練している。	年2回火災想定(昼・夜)の総合避難訓練を消防署へ届出の上実施している。また、緊急連絡網リレー通報訓練や消防設備取り扱い確認、机上シミュレーションなどを計画的に実施している。非常時用備蓄品も準備している。地震・風水害等避難訓練は未実施であり地域の協力体制も構築されていない。	火災想定訓練に留まらず地震や風水害等、あらゆる災害を想定し、特に職員の少ない夜間を想定した避難訓練を数多く実施し、職員が利用者を避難誘導できるよう経験を積んで欲しい。また、地域住民等の協力体制を構築することが求められる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の思いや意思を尊重している。プライバシーを損ねるような言動はしない様、対応している。	人生の大先輩として敬う言葉掛けや対応を心掛け、利用者の意向を尊重した支援に努めている。支援場面においては常にプライバシーや羞恥心、自尊心を損ねない言葉掛けと対応を心掛けている。重要書類は書庫で施錠管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の関わりを通じて信頼関係が築けるよう言葉かけや環境づくりに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望や要望があれば可能な限り実現できるよう対応している。ゆったりとしたペースで生活できるよう雰囲気作りを意識している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった衣類を一緒に選んだり、買い物にも出かけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	季節の食材を用いたり、食べたいとおっしゃられたものを提供できている。	利用者の持てる能力を活かした食事作りを継続している。利用者も食事作りが日常生活の中で力を発揮できる場面となっている。献立は、利用者の嗜好や意向を反映し職員が作成している。食材の買出しも利用者と職員が近隣スーパー等で調達し、菜園で収穫した食材を活かした食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を記録にて把握している。食事形態などにも工夫を凝らしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	美味しく食事が摂れるように食後には利用者様に合わせた口腔ケアを行っている。定期的に訪問歯科の受診を受けている利用者様もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握しながら利用者様に応じた声掛け誘導を行い、排泄の成功に努めている。	排泄チェック表や表情、仕草等から利用者の排泄パターンを把握し、羞恥心や自尊心を損ねない声掛けや誘導を行い、トイレでの自立排泄支援を行っている。綿パンやリハパン・パッドなど利用者の状態に応じた自立支援と経費の削減にも取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝ヨーグルトを提供し、個々の水分量を見て摂り方を工夫したり、程度な運動や腹部マッサージを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が楽しめるように入浴剤を使用したり、一人一人希望する温度で温まることができるように温度設定を調整しながら支援している。	利用者の希望を取り入れ週3回を目途に入浴を支援している。羞恥心に配慮した同性介護を基本に利用者の意向を大切にされた入浴支援を行っている。また、気分良く入浴していただくため、温度調整やユズ湯・菖蒲湯・入浴剤による入浴を支援し、要望により夜間入浴も対応可能としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休息したり、気持ちよく眠れるように環境の整備に取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や薬剤師の指示や薬剤情報を確認、共有化している。変更があればその都度共有し、経過観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の力を活かした役割をお願いし、楽しみ事や気分転換をして喜びのある日々を過ごせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	花見やドライブ、紅葉狩り等、季節に合わせた外出支援を行っている。利用者様に合わせて散歩や買い物に出掛けたり、家族様の協力を出かける方もいる。	利用者は、日常的に職員と一緒に食材等の買出しや小物・洋服の買い物等に外出している。また、中央デッキを活用した活動と近隣の散歩等で外出し気分転換を図っている。行事による外出はドライブを兼ね、花見・公園・紅葉狩りなどで外出の機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じてお金を所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じていつでも電話が利用できるようにしている。携帯電話を所持し、利用されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様にとって不快や混乱を招く事がないように動き回れる広さの確保や室温調整に配慮し、季節感をとり入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	各ユニットのリビングはそれぞれ特徴があり、和風の炬燵設置仕様とフラット式畳コーナー仕様がある。リビングにはソファを置き利用者が自由に居場所を選べるよう工夫し、また、中央ウッドテラスには椅子やテーブルを設置しゆったりとお茶を楽しむ事ができる等、居心地良く過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席のほか、ソファやたたみもあり、一人一人自由に過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	プライバシーを大切にしながら馴染みのある物を活かして本人が安心して過ごせるよう支援している。	私物持ち込みは、刃物・針以外自由としている。ベッド・クローゼット・洗面台・エアコンが設置され、利用者は枕や毛布、カーテンなどを持参している。また、テレビ・テーブル・冷蔵庫・アイロン・家族写真パネルを持参し、入居前の生活に近い物を活かした居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室にはそれぞれ分かりやすいように目印をつけて場所が把握できるようにしている。		